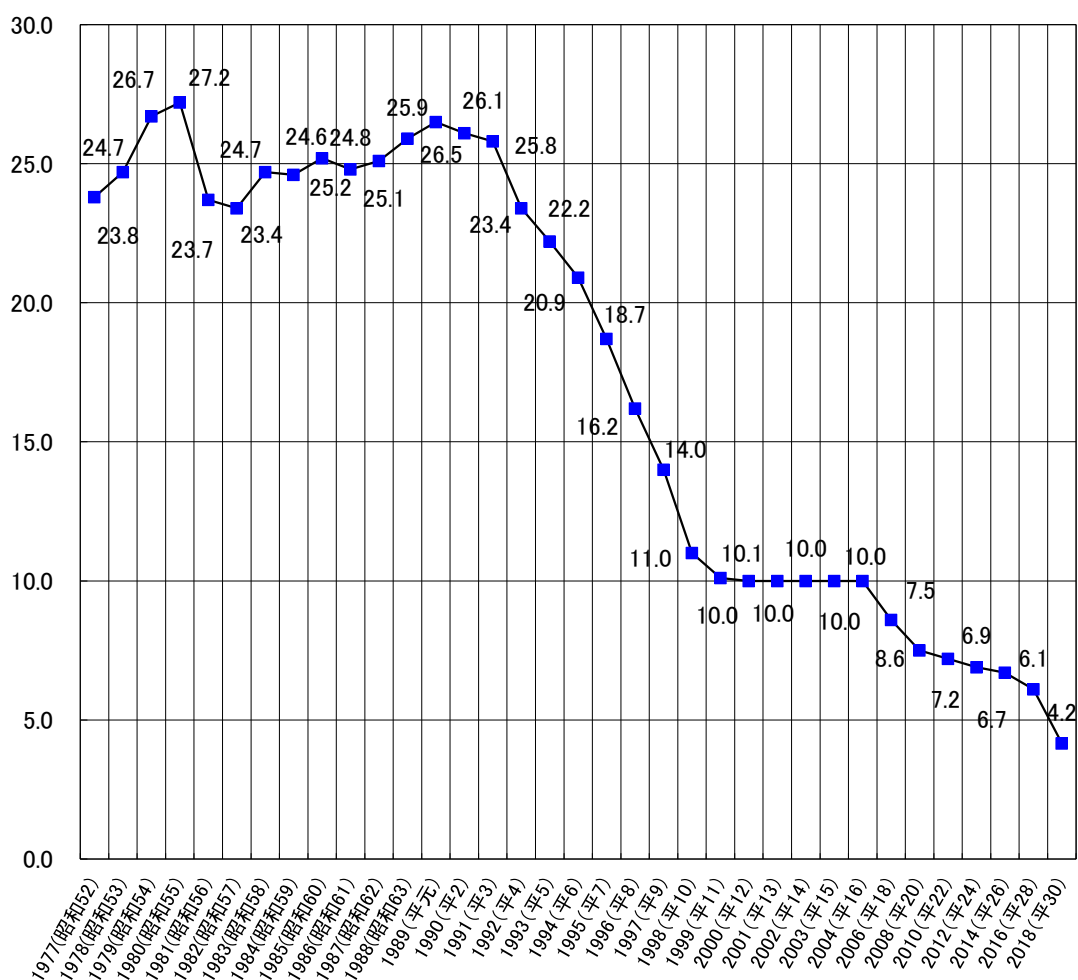


高岡の漆器

【漆器販売額の推移】 (単位:千円、%)

年	販売額	前回比
2010(H22)	716,594	—
2012(H24)	690,238	96.3
2014(H26)	670,871	97.2
2016(H28)	618,313	92.2
2018(H30)	416,116	67.3

億円



【品種別販売額】

(単位:千円、%)

品種	2018年(平成30年)		2016年(平成29年)		前回比
	販売額	構成比	販売額	構成比	
盆 類	81,049	19.5	138,820	22.5	58.4
箱 類	56,107	13.5	75,300	12.2	74.5
室内調度品	45,377	10.9	68,247	11.0	66.5
茶 道 具	10,332	2.5	14,362	2.3	71.9
膳 類	1,512	0.4	609	0.1	248.4
盛器・その他	221,738	53.3	320,976	51.9	69.1
計	416,116	100.0	618,313	100.0	67.3

※その他…文具、食器類、新商品、アクセサリ等。

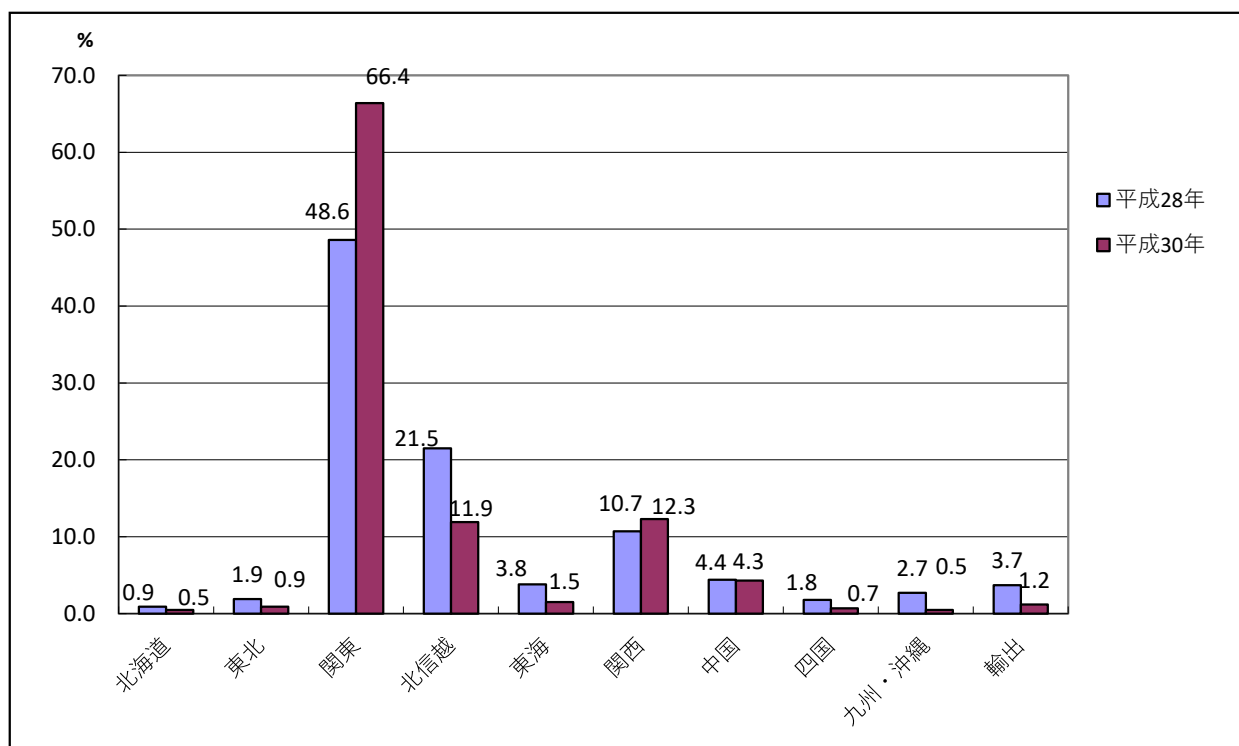
高岡の漆器

【品種別販売額及び割合の推移】

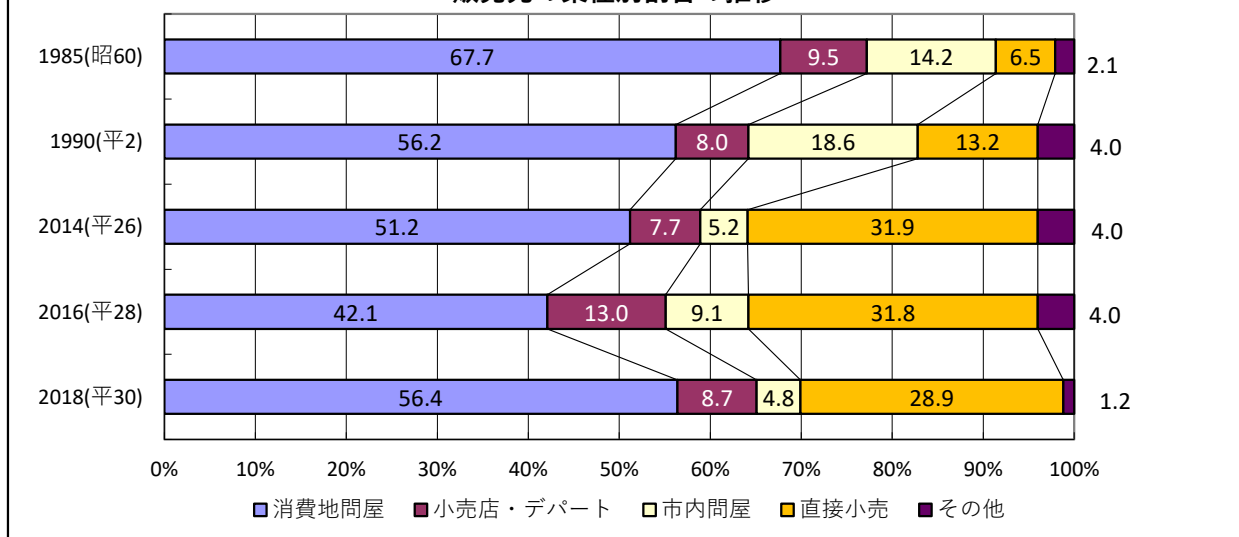
(単位:千円)

品種	2018(H30)		2016(H28)		2014(H26)		1990(H2)		1985(S60)	
	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比
盆 類	81,049	19.5%	138,820	22.5%	233,463	34.8%	981,713	37.6%	1,139,324	45.3%
箱 類	56,107	13.5%	75,300	12.2%	53,212	7.9%	543,075	20.8%	455,227	18.1%
室内調度品	45,377	10.9%	68,247	11.0%	61,523	9.2%	216,708	8.3%	314,383	12.5%
茶 道 具	10,332	2.5%	14,362	2.3%	21,822	3.3%	190,598	7.3%	193,660	7.7%
膳 類	1,512	0.4%	609	0.1%	1,775	0.3%	148,823	5.7%	115,693	4.6%
盛器・その他	221,738	53.3%	320,976	51.9%	299,077	44.6%	530,021	20.3%	296,778	11.8%
計	416,116	100.0%	618,313	100.0%	670,871	100.0%	2,610,938	100.0%	2,515,065	100.0%

【漆器地域別販売割合】



販売先の業種別割合の推移



【製法別事業所数と生産額】

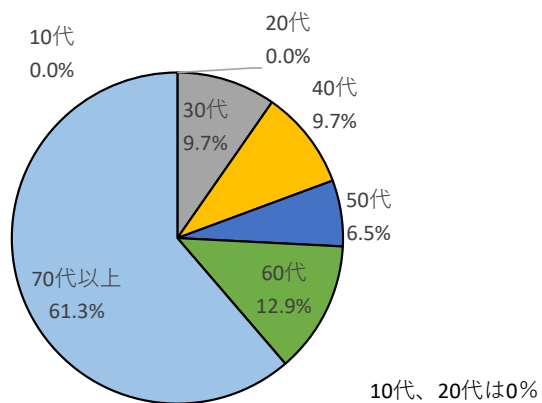
(単位:千円、%)

製法	2018年(平成30年)			2016年(平成28年)			前回比	
	事業所数	年間生産額	構成比	事業所数	年間生産額	構成比	事業所数	年間生産額
木 地	2	8,724	12.7	3	24,000	18.5	66.7	36.4
彫 刻	0	0	0.0	2	4,074	3.1	0.0	0.0
青 貝 等	4	32,985	47.8	4	33,378	25.8	100.0	98.8
塗 り	12	27,245	39.5	15	68,128	52.6	80.0	40.0
計	18	68,954	100.0	24	129,580	100.0	75.0	53.2

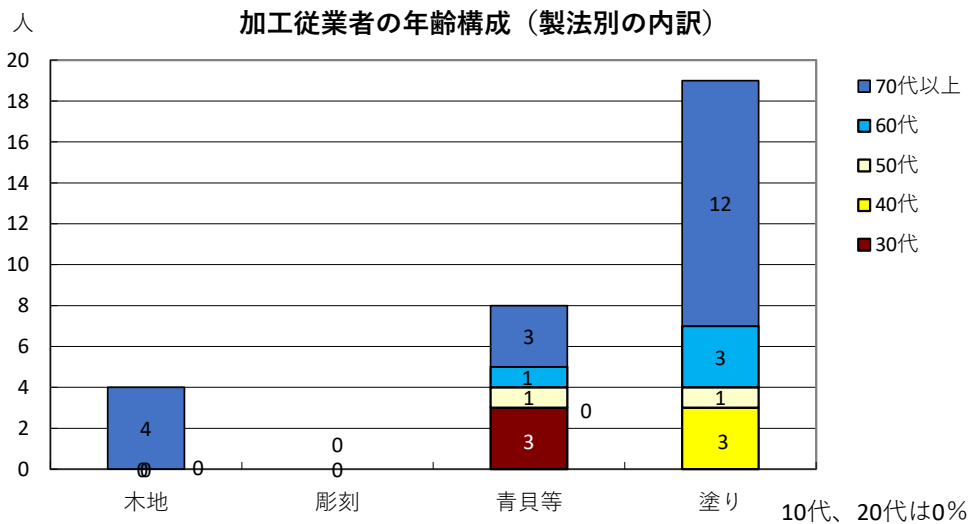
【事業所数と従事者数】

業 種		2018年(平成30年)		2016年(平成28年)		前回比(%)	
		事業所数	従事者数	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数
問屋		10	74	12	74	83.3	100.0
加工	木 地	2	4	3	7	66.7	57.1
	彫 刻	0	0	2	1	0.0	0.0
	青 貝 等	4	8	4	11	100.0	72.7
	塗 り	12	19	15	31	80.0	61.3
計		28	105	36	124	77.8	84.7

加工業従事者の年齢構成

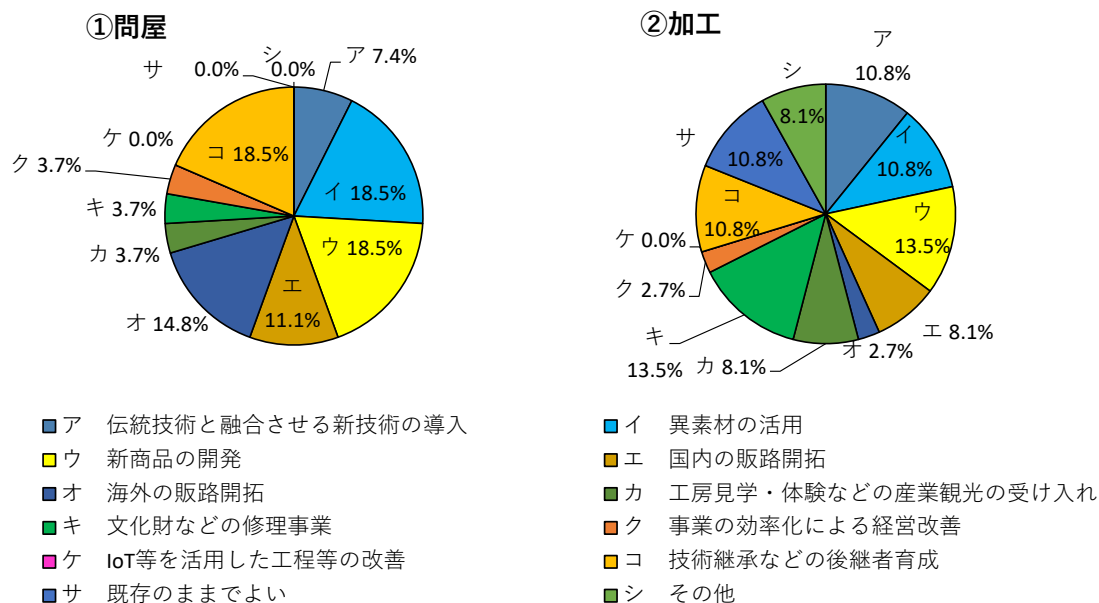


加工従業者の年齢構成（製法別の内訳）



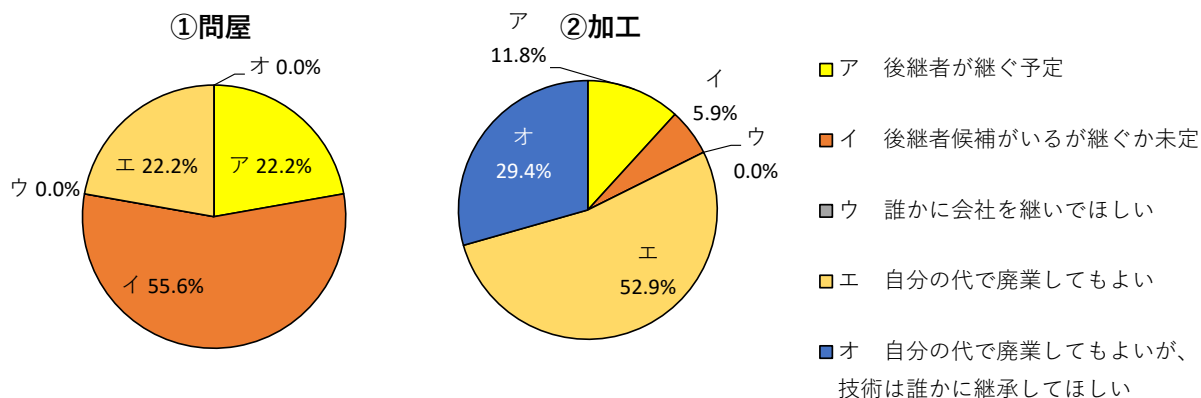
【意識調査について】

1 今後の方向性



問屋は「技術継承などの後継者育成（18.5%）」が最も高い。販路開拓については、「国内（11.1%）」よりも「海外（14.8%）」が上回っており、海外への挑戦意欲が伺える。また、加工では「工房見学・体験などの産業観光の受け入れ（8.1%）」「文化財などの修理事業（13.5%）」となったが、どちらも今回から新たに選択肢に加えたもので、近年関心が高まっている項目と言える。

2 後継者について



「後継者が継ぐ予定（問屋22.2%、加工11.8%）」「後継者候補はいるが継ぐか未定（問屋55.6%、加工52.9%）」であった。それ以外の回答「誰かに会社を継いでほしい」「自分の代で廃業してもよい」「自分の代で廃業してもよいが、技術は誰かに伝えたい」は後継者は不在のものであり、加工ではその合計が82.3%にのぼった。前ページ記載の「加工業従事者の年齢構成」をみると、70代以上が61.3%にのぼることと併せて、加工業従事者の高齢化と後継者不足の現状が浮き彫りとなった。